

- 公民館活動
- 生涯学習
- 文化振興
- 学校
- スポーツ



# 学びの広場

## たくさん見つけて大喜び!初めてのわらび採り

～放課後子ども教室「阿仁合いいききタイム」～

子どもたちの放課後の安全・安心な居場所を確保し、体験活動を通して遊んで学ぶ「放課後いきいきタイム」が、6月9日に阿仁合小学校児童クラブで行われ、児童約10人が参加しました。

はじめは、生い茂る草木とわらびの区別がつかなかった子どもたちでしたが、指導員に教えてもらい、両手いっぱいわらびを持って、「こんなに採れたよ」と嬉しそうに話していました。わらびの他にもイタドリの葉やプラタナスの小枝などの植物につい



▲わらびを見つけて嬉しそうな児童でも教わり、採ったものを自慢げに持って帰る姿が見られました。

## 上手にできたよ!可愛いお皿が完成

～ひまわり陶芸ハウスでお皿落書き体験～

ひまわり陶芸ハウスで、6月8日にあいかわ保育園の園児26人が陶芸体験を行いました。

陶芸が初めての園児達は、講師の湯瀬二美代先生のお話を熱心に聞いて挑戦していましたが、慣れない粘土への絵付けに苦戦しながらも、果物やハートマークなどの絵を描いて、自分だけのお皿を完成させました。園児たちは「上手に書けた」、「楽しい」などと喜んでいました。園児達のオリジナルのお皿が完成するのは8月頃の予定です。



▲お皿に絵を書くあいかわ保育園児 ひまわり陶芸ハウスでは陶芸教室も行われているので興味のある方は合川公民館へお問合せください。

## 学びをとおして、人とモノをつなぐ

～北秋田市生涯学習奨励員協議会～

北秋田市生涯学習奨励員協議会が、6月4日に開催され、昨年度の活動の振り返りと今後の活動のあり方を話し合いました。

生涯学習奨励員は、秋田県独自の制度で、市民の学習活動を奨励し、生涯学習の充実や地域活動の推進を図ることを目的に活動を行っています。

県内初の高校生奨励員2人からは、「活動を通して人と交流することの楽しさに気付いた」、「地域の人の関わり方を学んだことで自分自身が成長でき



▲活動のあり方を話し合う生涯学習奨励員「など」発表があり、生涯学習推進のため、奨励員一人ひとりが気持ちを新たにしました。

# 温故知新

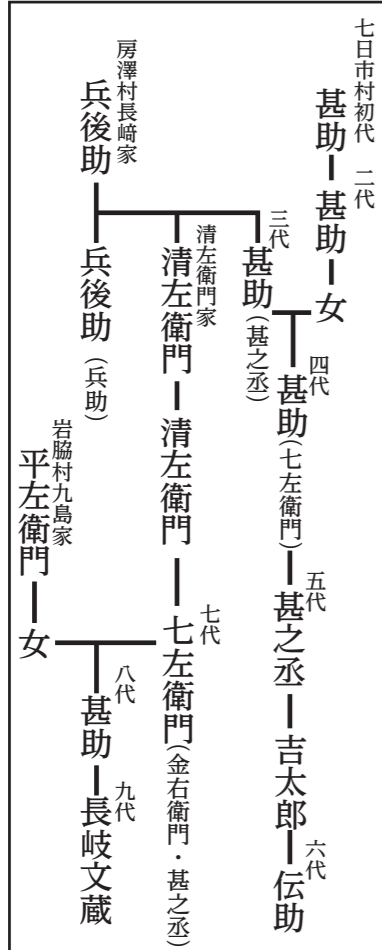
Vol.2

## 長崎氏から長岐氏へ

七日市村の肝煎(村の長)を勤める甚助家の七代長崎七左衛門茂親は、広く物事を知り記憶力の優れた人で、



▲七代長崎七左衛門茂親



▲長岐家系図

長岐氏が公認されるのは、孫になる文蔵の代の文政十三(1830)年だが、七日市の甚助家と血縁を持たない七左衛門の複雑な思いがたどり着いた答えが、長崎七左衛門であったであろう。

平成31年3月に県有形文化財に指定された「旧長岐家住宅」



▲県有形文化財に指定されている「旧長岐家住宅」(24ページに一般公開について掲載)

文化四(1807)年三月付の家系図を残している。家系図によると、三代甚助は、二代甚助の時に房澤村の肝煎長崎兵助の嫡男から娘婿に迎えられ、名を長崎甚之丞と改めて七日市村経営に尽力する。

甚之丞の異母弟で、房澤村の兵助は肝煎を後継し、名を兵助と改める。長崎兵助の代には「房澤五義民事件」が起きる。その後、房澤村名は改字されて坊澤となる。一方、甚之丞の同母弟である長崎清左衛門は分家した。

六代伝助が若くして亡くなると、甚助家は清左衛門家から養子を迎える。宝暦五(1755)年、坊澤村の肝煎長崎清左衛門(分家二代目)の四男金右衛門は甚助家五代甚之丞の養子となり、甚之丞を名乗って親

郷(※1)肝煎職にも就く。この甚之丞は岩脇村九島家の娘を妻とし四男一女をもうけ、甚助家四代の通称である七左衛門を名乗り、五村(岩脇・横瀬・小森・脇神・摩当)の寄郷を束ね、諸事業に成果を挙げ、多くの人に知られるようになった。

寛政六(1794)年肝煎役四十年の功で、藩から生涯二人扶持(※2)の御称(ほうび)を受けた七左衛門は、長岐ではない新しい名字をつくることにした。甚助家の修験所に「長岐寺」の寺号を取得した七左衛門は、自筆の家系図で「長岐の根本は長岐なり」と述べる。実は甚助家初代甚助の本姓は益子氏であるが、七左衛門の実家長岐氏の出づから、長岐の「長」と、土岐の「岐」で本姓を長岐としたのであろう。

宅は、文政十三(1830)年に建築されたもので、農村興隆に尽くした長岐家の歴史を今に伝えている。(文 永井高道)

- ※1 有力な肝煎がいる村を親郷と呼び、その周辺の村を寄郷と呼ぶ。
- ※2 1年間に二人分の生活費を支給されること。